

相馬農業高等学校の「相農ショップ」との協働的な取組②

7月14日（木）に行われた相農ショップでは、少しずつ本校の生徒の緊張も解けて、一緒に準備したり、片付けたりする様子も見られました。実際の販売場面では、お客さんが商品を手に取ると「お菓子を包むのに便利です。」と説明を加えたり、お客さんのタイミングを見て、考えて声を掛けたりする等、実際の体験から学び、成長する様子が見られました。



【体験後の生徒の声】

○前よりも人と話せた。最初は、どうしたらいいのかってあったんですけど、長時間やっているるとどんどんできるようになってきた。（自分が）変わったなって分かる。」

○目先が変わるといふか、そこ（相馬支援学校）だけじゃなくて、周りに目が行くので、（地域に向けて）視野が広がっているという感じがしました。

○1回目は緊張して、人と関わることができなかつたけど、2回目の時は、勇気を出してしゃべることができました。しゃべってみて、相手の人も返してくれたので良かったです。

○売る時に、「どこで、商品の魅力を伝えるのか」「いつ言えばいいか」が不安だった。売り方を知ってはいたが、実際やるのは違った。体験した方が身に付いた。



生徒たちは、相馬支援学校の中だけでは経験できない、地域を考えるきっかけとなり、その中で自分の役割や責任について考え、それぞれの生徒が実践していました。今後も、相馬支援学校、相馬農業高等学校の双方の生徒たちの学びを大切に、協働的に取り組めるようにしていきたいと思ひます。

